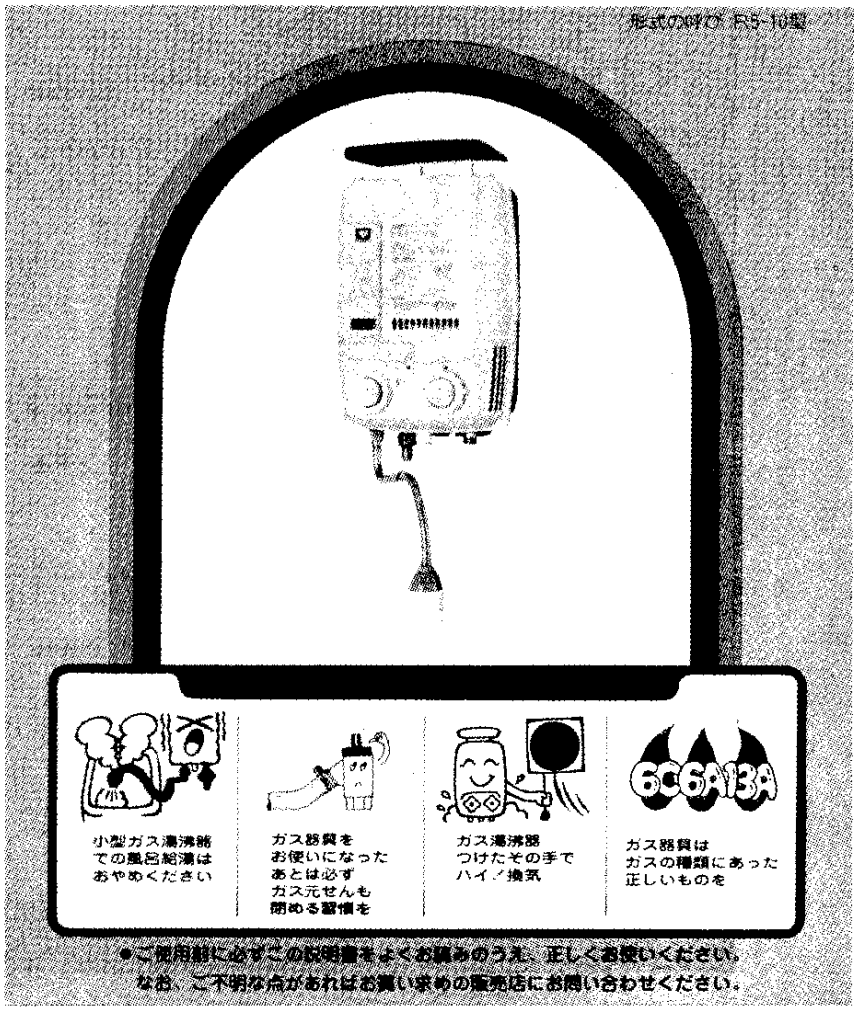
大阪ガス

ガス湯沸器
取扱説明書　33-031 型

保証書付



ごあいさつ

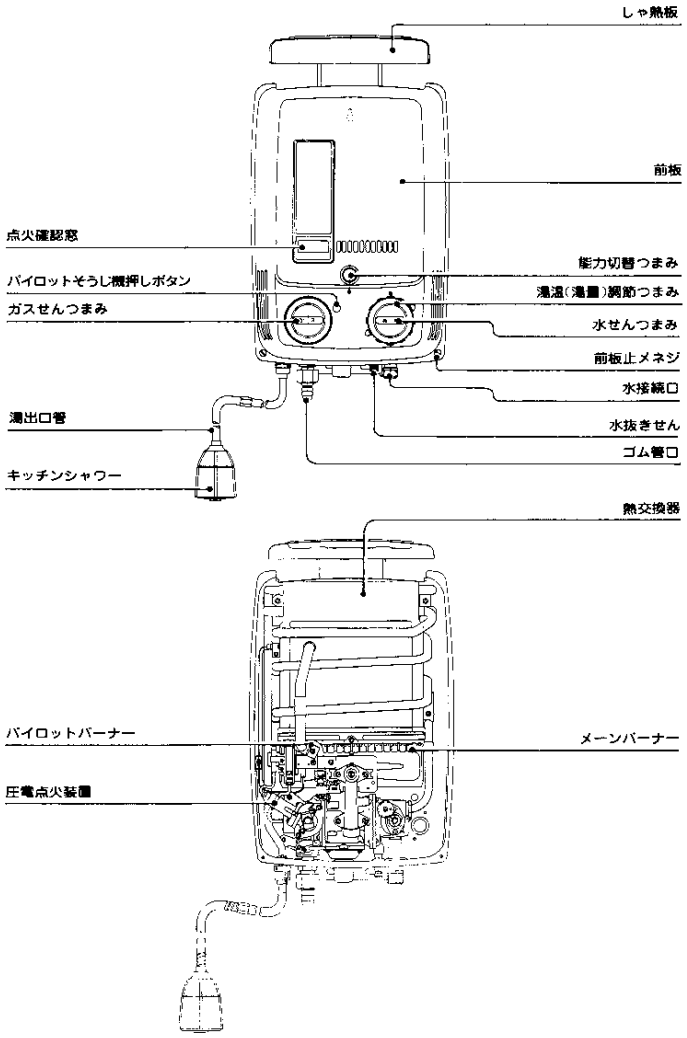
このたびは、大阪ガスのガス湯沸器をお求めいただきありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

もくじ

- 各部の名称…… 2
- 特に注意していただきたいこと…… 3
- 器具の設置…… 8
- 使用手順…… 13
- 使用時のご注意…… 16
- 日常の点検・手入れ…… 18
- 長期間使用しない場合…… 19
- 故障・異常の見分け方と処置方法…… 20
- アフターサービスのお申し込み…… 21
- 特長…… 22
- 寸法図と仕様一覧表…… 23
- 別売部品のご紹介…… 24
- 本製品と快適な暮しのために…… 25

おおもと



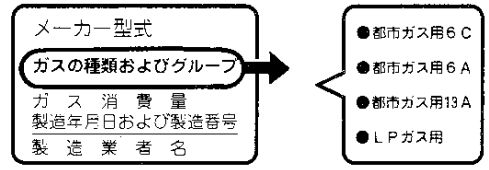
特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

●**ガスの種類を確かめてください。**
ガス器具本体の右側面にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類と、お宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。

（銘　板）



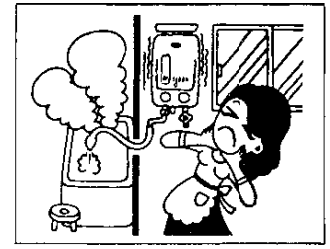
●ガスの種類には、都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスには、ガスグループの区分があります。

●転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

使用についてのご注意

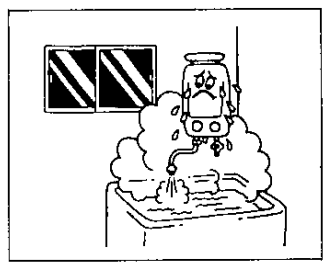
●配管工事(先止工事)は絶対にしないでください。
先止式ではありませんから、湯を止めても火が燃え続け危険です。

●この湯沸器で風呂へ給湯することは絶対おやめください。
長時間使用で、器具の損傷を早めたり空気不足から不完全燃焼をおこし危険です。

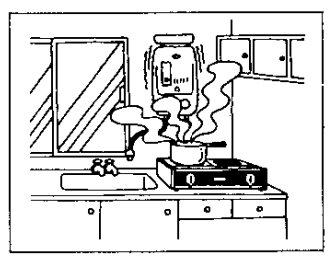


●家具、壁その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。
湯沸器の周囲15cm以上離してください。
●換気扇のある場所に取付けてください。換気扇のない場合は、換気扇を取り付けるか、または排気筒工事を行なってください。
●強い風の吹き込む所や冷暖房装置の吹出し口及び吸込口近くでは使用しないでください。
風によって不完全燃焼防止装置が作動したりパイロットバーナーが吹き消えることがあります。
●器具を屋外に取付けないでください。屋外は、寒気で凍結して器具が損傷したり、パイロットバーナーが風で消えたりすることがあり危険です。

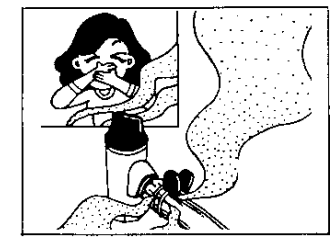
●器具を浴室内には、絶対取付けないでください。
浴室内は換気が悪く、湿気が多いため、不完全燃焼を起こし、危険ですし、器具の寿命を縮めます。



●ガスレンジやコンロのすぐ上に湯沸器を取付けないでください。
ガスレンジやコンロとガス湯沸器を同時使用したとき、レンジやコンロの排気のため、湯沸器が不完全燃焼をおこすおそれがあり危険です。
又、不完全燃焼防止装置が作動することがあります。

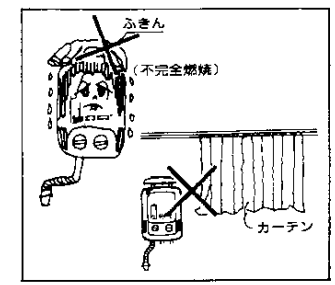


●ゴム管は、ガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。
ビニール管は弾力性がなく、熱にも、強くありません。
●ゴム管は良質のものを用い、時々とりかえてください。
(ゴム管の取替えの目安は約3年です。
ゴム管が古くなりますと、元せんや器具せんから抜けやすくなったりヒビ割れして、ガス漏れの原因になり危険です。



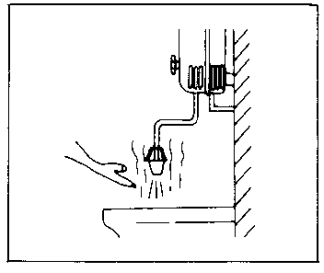
●器具をご使用にならないときや、外出前またおやすみ前には、万一の事故がないように、必ず元せんをしめてください。

●湯沸器上部の排気口やしゃ熱板の上を絶対にふさがないでください。(ふきんなどを乗せないようにしてください)
不完全燃焼や異常過熱の原因になります。また不完全燃焼防止装置が作動することがあります。
●器具の上やそばに燃えやすいもの(紙、カーテン、家具、揮発油など)を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。



●湯出口管の先に長いホースをつけて使用しないでください。
万一ホースが折れ曲ると異常過熱をし危険です。

やけどのご注意



●ご使用中および使用直後は、器具本体としゃ熱板は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。

●お湯を使用後、すぐに再度お使いになるときは、いきなり手にかけず、数秒待ってお使いください。
器具の後沸きによって一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。

換気のご注意

●ご使用と同時に**換気扇を回す**など換気にご注意ください。
別売の換気扇連動スイッチをお買い求めいただきますと、湯沸器使用時、自動的に換気扇が作動します。

●換気せずに連続して10分以上使用しないでください。
しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼防止装置が作動する場合があります。

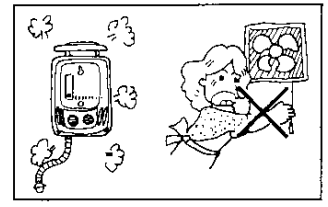
●**冷暖房機の使用中でも十分換気**をしてください。

●お部屋の換気口（給気口・排気口）は常に確保し物などでふさがないでください。

ガス漏れ時

●ガス漏れに気ずいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部あけて、ガスを外へ出してからお買上げの販売店もしくはもよりの大阪ガス支社へ連絡してください。

●万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり換気扇その他電気器具にふれたり（スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等）しないでください。
火や火花で引火し爆発事故を起すことがあります。

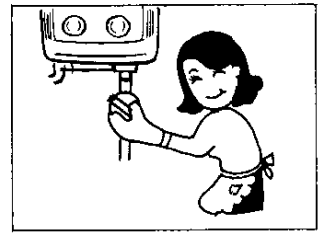


凍結についてのご注意

●厳寒期には器具内の水が凍結し、破裂事故が起こることがありますので、庭のたまり水などが凍るおそれのある日は**凍結を防止する処置を必ずおこなってください。**（凍結防止方法については17ページを参照）

●凍結したときは
1 器具や配管が、破損し、高額の修理費用がかかる場合があります。**（有償）**
2 凍結したまま使われますと、器具に異常が生じる場合があります。
凍結が溶けた後、水もれがないことを確認の上ご使用ください。

異常時の処置



●ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、**ただちにご使用を中止（器具せん、ガス元せん閉止）してじゅうぶんな点検をお願いします。**
「故障・異常の見分け方と処置方法」については20ページをお読みください。

点検

●器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ずおこなってください。
点検、手入れの方法については18ページをお読みください。

器具の設置

設置前の準備と確認

●器具に表示してあるガスの種類と使用するガスの種類が一致していることを確認してください。
●付属部品の確認をしてください。

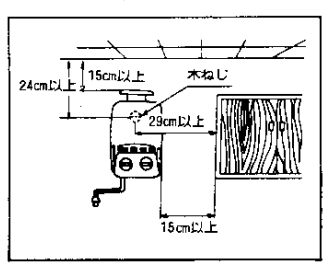
設置上のご注意

●使用用途の確認をしてください。
詳しくは3ページの「用途についてのご注意」を参照してください。
●設置場所の確認をしてください。
設置場所をお決めになるときは、火災予防・保守点検等をよく検討してお決めください。
詳しくは4ページの「使用場所についてのご注意」を参照してください。
●**換気設備について**
元止式湯沸器をお取付けになる場所には次の換気設備のいずれかが必要です。
①排気筒＋給気口＋排気口（有効面積各100㎠以上）
②換気扇＋給気口（有効面積100㎠以上）
●換気扇の操作が容易におこなえない場所や、特に換気を確実におこなう必要がある気密性の高い部屋に設置する場合は、換気扇と連動してください。

器具の取付けについて

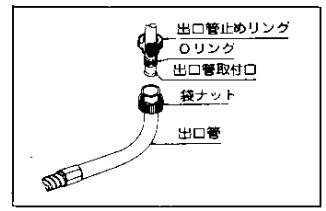
●**取付け高さ**
点火確認窓が目の高さにすると、もっとも使いやすくなります。

●**本体の取付け**
①湯沸器の上部を固定する木ねじを1本天井から24cm以上、両横の壁からは29cmはなした位置に、ネジ込みしろは2mm残して取付けてください。
（目の高さから約18cm上につけますと湯沸器が使いやすい高さになります。）

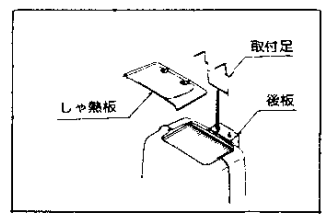


②湯沸器を前記の木ねじに取付けてください。
③湯沸器の下部取付穴（2カ所）を木ねじでいっぱい締めて固定してください。
締付けがゆるいときは湯沸器がゆれて使いにくくなります。

●**出口管の取付け**
①出口管取付口に出口管をさしこんでください。
・出口管は出口管止めリングにあたるまでいっぱいさしこんでください。
②出口管止めリングに出口管を袋ナットで締め付けてください。



●**しゃ熱板の取付け**
①しゃ熱板に取付足を差し込んでください。
②しゃ熱板を後板の取付足にあたるまで差込んでください。



●配管工事は給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
配管材料は必ず関係水道局の承認あるいは検査に合格したものをご使用ください。
●給水接続径はPF½(15A)です。
器具の手前には必ず給水元せんか分岐水せんを取付けてください。
●この湯沸器の作動には最低**0.45kg/㎠以上の水圧**が必要です。これより低いところでは使用できませんので、十分な給水能力を確保できるようにしてください。
高架水槽より給水のときは高架水槽の底部より湯沸器上部までの高さが5m以上を必要とします。
●湯沸器までの配管が終り湯沸器に接続する前に必ず一度水を流して、配管内のゴミ、砂、糸くずなどを流し去った後に接続してください。
配管内のゴミなどは湯沸器の故障の原因になります。

ゴム管の接続

●ゴム管は赤線までさしこんでしっかりととめてください。
都市ガス用は13mmφ(直径13mm)、LPガス用は9.5mmφ(直径9.5mm)のゴム管を使用し、お部屋の元せん、器具せんともゴム管口の赤線まで、じゅうぶんさしこんでゴム管止めでしっかりとめてください。
ゴム管止めでしっかりとめていないと、知らずにはずれかかってガスもれが生じることがあり危険です。

●ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりねじれたりしないよう、できるだけ短かくし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。
器具の下を通したり、器具に触れていると、ゴム管が過熱して早く傷んだり、じゅうぶんな点検ができず危険です。

●ゴム管は良質のものを用い、時々とりかえてください。**(ゴム管の取替えの目安は約3年です)**
ゴム管が古くなりますと、元せんやゴム管口から抜けやすくなったりヒビ割れして、ガスもれの原因になり危険です。

金属配管工事・強化ガスホースの接続

●この湯沸器はガス入口部のゴム管口をはずせば金属管接続・強化ガスホースの接続ができます。
金属配管工事・強化ガスホースの接続工事につきましては大阪ガスにご相談ください。

換気について

●冷暖房などのため部屋を閉めきったり、業務用等で長時間使用される場合排気筒を取り付けるか、湯沸器の近くの換気扇と連動してください。

排気筒の接続

●火災予防条例を守ってください。
①排気筒の壁の貫通部はめがね石、また周囲を10cm以上の不燃性断熱材で遮断してください。
②天井、軒先などの可燃性の家屋構造体、および家具から15cm以上離してください。

●排気筒は耐久性のある材質をご使用ください。排気筒は90mmφのものを使用してください。

●バフラーは別売しております。

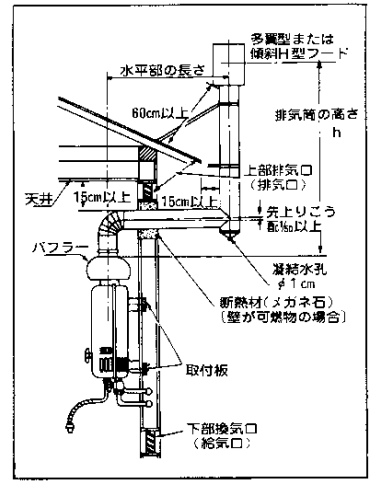
排気筒の高さは、次式で求めた値以上とする。
都市ガスの場合

$$h=\frac{0.5+0.4n+0.1\ell}{\left(\frac{1,000Av}{6H}\right)^2}$$

LPガスの場合

$$h=\frac{0.5+0.4n+0.1\ell}{\left(\frac{Av}{72Q}\right)^2}$$

h：逆風止め開口部下端からの距離が8m以内の部分における排気筒の高さ（m）
n：排気筒の曲りの数
ℓ：逆風止め開口部の下端から排気筒の先端の開口部の中心までの長さ（m）
Av: 排気筒の有効断面積（㎠）
H：ガス機器のガス消費量(kcal/h)
Q：ガス機器のガス消費量(kg/h)



換気扇連動スイッチの設置

●この湯沸器には換気扇連動スイッチの検出部が内蔵してあります。
別売の換気扇連動スイッチ（95-205型、95-210型）をお求めいただきますと、湯沸器使用時、自動的に換気扇が作動します。

取り付け後の確認

●取付工事が終わりましたら、ガス湯沸器が正常に動作するかどうか次の点を確かめてください。

●器具およびその周辺

①可燃物との距離および防火措置は十分か。
②日常の使用および点検に支障はないか。
③付属品等の取付状態は正しく行われているか。

●給水・ガス接続

給水配管接続部、ガス配管接続部からの漏れはないか。

使用手順

はじめてお使いのとき

●はじめてお使いのときや、しばらく使用されなかったあとなどは、ゴム管内に空気が入っているため、すぐに点火しない場合があります。この場合は、再度点火操作をくり返してください。

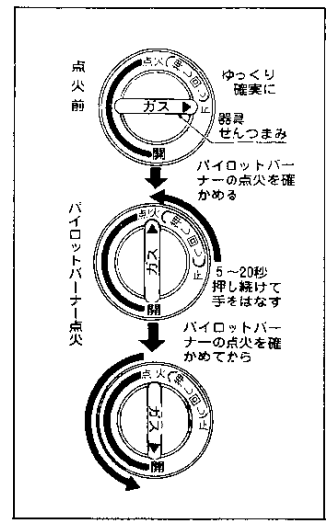
点火前の準備と確認

●湯沸器へ給水し、通水することを確認してください。
●ガスせんつまみ「止」を確認し、ガス元せんを全開にしてください。

点火

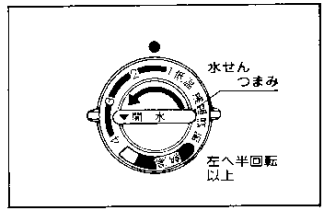
●パイロットバーナーの点火

①ガスの元せんを全開にしてください。
②器具せんつまみを完全に押して「止」から「点火」の位置まで回してください。
③つまみを押したままでパイロットバーナーの点火を点火確認窓から見て確かめてください。
（火がついていない時は②をくり返してください。）
④つまみを強く押したまま約20秒待ってください。押し方が弱いと火がつきません。
⑤つまみを離して点火確認窓より、パイロットバーナーの点火を再確認してください。
⑥火が消えているときは②～⑤の操作をくり返してください。



出湯(お湯を出すには)

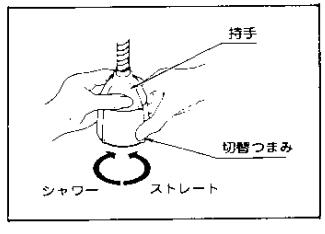
● 水せんつまみを左へ半回転以上回すとメーンバーナーに着火しお湯が出ます。
(水圧の低いお宅では、水せんつまみを十分に回さないとメーンバーナーに着火しなかったり、ご使用中に火が消えることがあります。)



●最低作動水圧について

この湯沸器は最大水量のときに0.45kg / ㎠以上の水圧がいります。ご使用中でも水圧が0.45kg / ㎠以下にさがるとメーンバーナーは消火しますが故障ではありません。

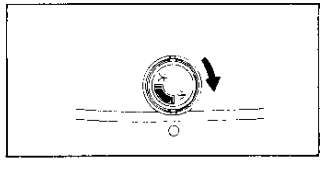
● キッチンシャワー付き湯出口管のシャワー出湯とストレート出湯の切替え方。
切替つまみを右に回せばストレート出湯、左に回せばシャワー出湯となります。
シャワー出湯の時は、湯温調節つまみは「1」～「3」の位置でお使いください。



〈ご注意〉切替の際は、必ず持手を片手で保持し、もう一方の手で切替つまみを回してください。片手操作や無理な取扱い方をしますと、湯出口管が折れる場合があります。

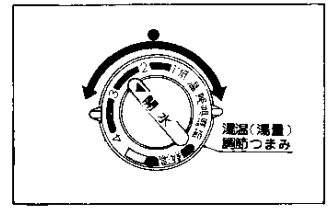
能力切替

● 能力切替つまみを大の位置から小の位置に向って右に回しますとガス量がしぼられて加熱能力が小さくなります。
(最大能力の7割まで可能です)
● 季節に応じて適当な位置でお使いください。



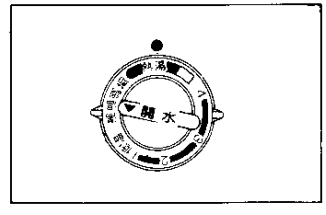
湯温(湯量)調節

● 水せんつまみの外側の湯温(湯量)調節つまみを回して目盛を1「低温」から「熱湯」の位置までお好みの湯温になるように湯温(湯量)調節つまみの上の「●印」にあわせてください。
(数字と数字の間でも使えます。また「1」から「熱湯」へは左にも回せます。)



● 熱湯を出すには

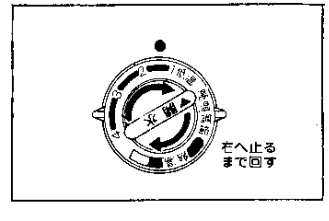
① キッチンシャワー付き湯出口管がストレート出湯になっていることを確認してください。
② 湯温(湯量)調節つまみの目盛を「熱湯」にあわせてください。
(湯出口管を持って使用するときはキッチンシャワー付き湯出口管の赤色の部分を持ってください。)



熱湯をお使いになるときは、ヤカンやポットで受けてください。コーヒーカップなどで熱湯を受けられますと、熱湯が飛び散ってやけどをすることがありますのでご注意ください。

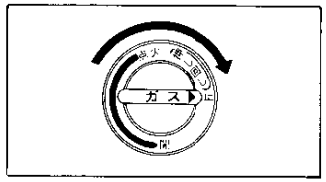
消火

● 水せんつまみを右へ止まるまで回してください。このときメーンバーナーの火が消え、パイロットバーナーのみ残ります。



消火

●器具せんつまみを右へ回して、「止」の位置まで戻してください。
●ガス元せんと給水元せんを閉じてください。



使用時のご注意

安全装置が作動したときの処理方法

●パイロット安全装置

パイロットバーナーの炎が消えたときには安全装置が働いて自動的にガスが止まりますが、完全に止まるまで若干の時間がかかります(約1分)ので、パイロットバーナーの消火に気ずいた時は、すぐガスせんつまみを元の「止」の位置に戻してください。再点火する時はすぐに点火をせず、しばらく待って(約1分)から注意して行なってください。
(再点火する時はお湯を止めてから行なってください。)

●不完全燃焼防止装置

お部屋の酸素が異常に少なくなったり、熱交換器が詰まったりすると、不完全燃焼することがあります。このような場合、不完全燃焼する前に燃焼を停止する安全装置です。
この場合は、ガスせんつまみを元の「止」に戻し、お部屋の空気を入れ替え、熱交換器の点検をしてから再点火してください。

〈ご注意〉 安全装置が作動したあと、点検して再点火しても、たびたび同じように作動をくりかえすような場合は、お買上げの販売店もしくはもよりの大阪ガス支社へ連絡してください。

使用上のご注意

●飲料用、調理用としてお使いのとき

器具内に長時間たまった水は飲料用または調理用に用いないでください。

●使用後すぐに再度お使いになるとき

器具の後沸きによって一瞬熱い湯が出ることがありますので、少し出してから手を触れるようにしてください。

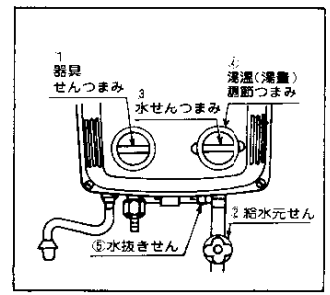
●水圧が下ったとき

0.45kg/㎠以上の水圧が必要です。ご使用中でも水圧が0.45kg/㎠に下りますとメーンバーナーが消火します。(給水元せんは全開にしてお使いください。)

凍結防止のための器具の取扱方法

●冬期器具内の水が凍るおそれのあるときは、凍結による器具の破損を防止するため水抜きを必ず行なってください。
次の順序で水を抜いてください。

①器具せんつまみを「止」の位置にもどす。
②給水元せんを開める。
③水せんつまみを開く。
④湯温(湯量)調節つまみを「1」の位置に合わす。
⑤水抜きせんを開く。



〈ご注意〉

- 上記①～⑤は次にお使いになるときまでそのままにしておいてください。
- 再度使用されるときは水抜きせんを開め給水元せんを開き湯出口管から水が流れるのを確かめた後水せんつまみを閉じ、点火操作を行なってください。

●凍結したときは

①器具が破損し、高額の修理費用がかかる場合があります。(有償)
②凍結したまま使われますと、器具に異常が生じる場合があります。凍結が溶けた後、水もれがないのをご確認の上ご使用ください。

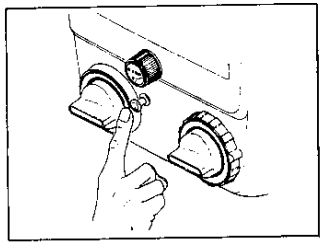
日常の点検・手入れ

点検・手入れ

●お手入れはやけどをしないように器具がじゅうぶん冷えてからおこなってください。

点検

●ゴム管はガス用ゴム管を使用し、器具およびガス元せんともゴム管口の赤線まで十分差し込んであるか点検してください。
●ゴム管が古くなったり、ひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるためにガスが漏れていないかときどき石けん水などで点検してください。
●器具の近くに、紙・プラスチック・油類など燃えやすいものが置いてないか点検してください。
●メーンバーナーに火移りするとき異常に大きな音がする場合はパイロットバーナーの炎が小さくなっていることがあります。
パイロットバーナーの炎が小さいときは器具せんつまみを「止」にしてパイロットそうじ機押しボタンを数回十分押してください。



●機器はご使用に支障がなくても、2～3年に1回ぐらい、バーナーや各部の作動が"正常"かどうか点検するのが、安全と長期間ご使用いただく為の"ひけつ"です。
●お買い求めの販売店又は、もよりの大阪ガス支社に、点検・診断を依頼してください。

お手入れ

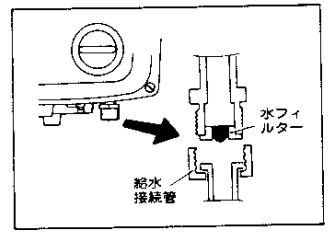
●前板のそうじ

やわらかい布をぬるま湯でぬらしてよくしぼってからふいてください。汚れがひどいときは、液状の洗剤を布にふくませて汚れをおとしてください。このときは、洗剤をよくふきとってください。

〈ご注意〉金属たわし、みがき砂などは使用しないでください。またベンジン、シンナーなど揮発性のものは絶対に使用しないでください。キズがついたり色があせたりします。

●水フィルターのそうじ

水フィルターに配管内のゴミ、砂がたまりますとお湯が出にくくなります。その場合は給水元せんを閉め、給水接続管ナットをはずし、水フィルターを引き出してそうじしてください。



長期間使用しない場合

●ガス元せんをしめ湯沸器内の水抜きを行なってください。
水抜き方法については17ページの「凍結防止のための水抜きのしかた」の項をお読みください。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止してじゅうぶんな点検をお願いします。

現象 / 原因	点火しない・点火しにくい	ガスせんつまみより手をはなすと消火する	使用中に消火した	黄炎で燃える	低温のお湯がでない	「高温」では着火するが「低温」では着火しない	お湯を止めても消火しない	処置方法	参照ページ
ガス元せんの開きがふじゅうぶん	○	○						ガス元せんを全開にする	—
配管内に空気が残っている	○	○						点火操作を繰り返す	13
給水元せんの開きふじゅうぶん			○		○	○		給水元せんを全開にする	14
水圧が適切でない			○		○	○		点検・修理を依頼する	—
点火操作が不適当	○	○						使用方法「点火」を参照	13
水フィルターにごみがつまっている			○	○	○	○		つまり除去または点検・修理を依頼する	19
水せんつまみの開きふじゅうぶん			○		○	○		水せんを全開にする	14
パイロットノズルのつまり	○	○	○					パイロットそうじ機押しボタンを押す	18
熱交換器(フイン)の目づまり			○	○				点検・修理を依頼する	—
点火装置の故障	○							点検・修理を依頼する	—
水ガバナーの故障					○			点検・修理を依頼する	—
器具内のガス弁の故障							○	点検・修理を依頼する	—
安全装置が作動		○	○					点検・修理を依頼する	—
バーナ炎口、空気孔、ノズルのつまり			○	○				点検・修理を依頼する	—
ノズルへの逆火				○				点検・修理を依頼する	—
パイロット安全装置の故障		○	○					点検・修理を依頼する	—
部屋の酸素が減少している			○					部屋の換気をする	16

処置や原因がわからないときは、ただちにお買い求めの販売店、または大阪ガス支社へご連絡ください。

修理を依頼される前に

●20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

●確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買上げの店またはもよりのお買上げの販売店もしくはもよりの大阪ガス支社へ連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

(1) 品　名……（ガス湯沸器）

(2) 品　番…… 左側面下部に貼付してあります。

（例）

(3) 現　象……（できるだけ詳しく）

(4) 道　順……（できるだけ詳しく）

ガスの種類について

●ガスには都市ガス14種類およびＬＰガスの区分があります。

ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。

この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証について

●この器具には保証書がついています。

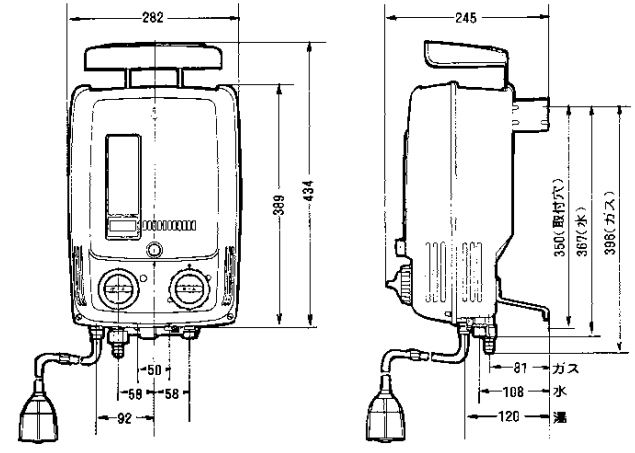
このガス湯沸器は保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。

保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

特　長

1. パイロット安全装置付きですので、万一パイロットバーナーが消えた場合自動的にガスがとまります。
2. 湯温(湯量)調節は低温から熱湯まで湯温(湯量)調節つまみの位置をあわせて調節できます。
3. 夏冬を通じて90℃～98℃の熱湯をご使用いただけます。
4. 蒸気や油煙の入りにくい側面吸気式です。
5. 水ガバナー(自動水圧調整器)とガスガバナー(自動ガス圧調整器)付きです。
6. キッチンシャワー付き湯出口管(フレキシブル管)がついていますので、お湯の飛び散りがなく食器洗いが非常に便利です。また湯口の向きを自在に変えられます。
7. パイロットそうじ機付きですので、ノズル詰りの場合、押しボタンを押すことによりノズルそうじができます。
8. 換気扇連動スイッチ検出部機構を内蔵しています。

仕様一覧表



仕　様　一　覧　表

項目＼種別		33－031			
		都市ガス6C	都市ガス13A	都市ガス6A	LPガス
最大消費ガス量	Kcal/h	9,700			9,600
	m³/h	2.3	0.93	1.5	0.80kg/h
種類	給(出)湯方式	元止め式			
	給排気方式	開放式(排気筒式)			
外形寸法(mm)		高さ416×幅282×奥行245			
重量(kg)		6			
接続	ガス	13mmφゴム管			9.5mmφゴム管
	給水	15A(PF½B)			
点火方式		圧電点火			
作動水圧(kgf/cm²)		0.45			
出湯能力〔水温+25℃(ℓ/min)〕		5			
安全装置		パイロット安全装置・不完全燃焼防止装置			
附属品		しゃ熱板・キッチンシャワー付き湯出口管・木ネジ			

換気扇連動スイッチ(95-205)

●湯沸器使用と同時に換気扇が回り室内の排気ガスを排出して換気します。

換気扇連動スイッチ(95-210)

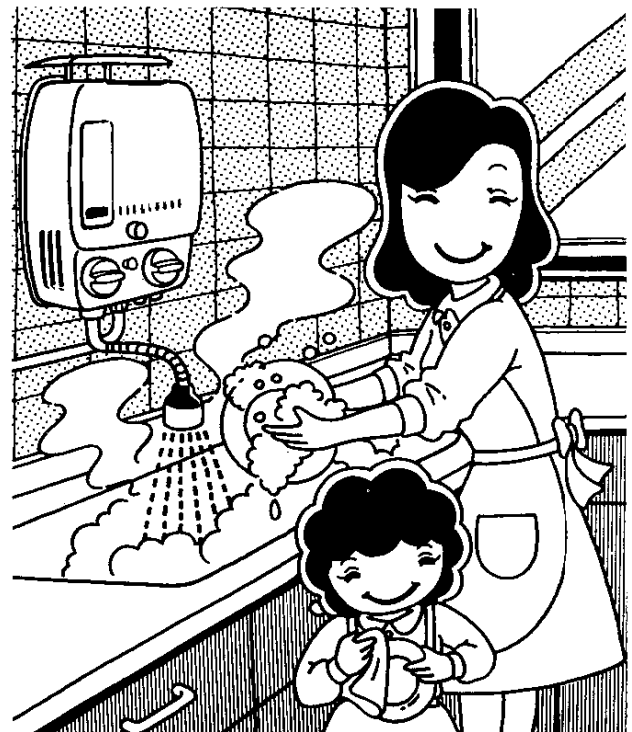
●湯沸器使用と同時に換気扇が回り室内の排気ガスを排出して換気します。また換気扇の入れ忘れや停電時には湯沸器が使用できない安全装置付きです。

特製出口管

●湯沸器本体と使用場所がはなれている場合に使用します。長さ600㎜、800㎜、1,000㎜のタイプがあります。

専用バフラー(38-962)

●業務用等で長時間使用される場合、排気筒を取り付けるときに専用バフラーが必要です。



お ね が い

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから（火気に注意して）大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市東区平野町５丁目１	☎大 阪 06（202）2221
南　支　社	〒557	大阪市西成区玉出東2丁目9番41号	☎大 阪 06（652）0001
北　支　社	〒532	大阪市淀川区十三本町3丁目6番35号	☎大 阪 06（301）1251
堺　支　社	〒590	堺市住吉橋町２丁２番１９号	☎ 堺 0722(36) 1131
北摂支社	〒569	高槻市藤の里３９番６号	☎高 槻 0726(71) 0361
阪神支社	〒662	西宮市和上町４番１１号	☎西 宮 0798(26) 3101
東部支社	〒578	東大阪市堀江２丁目３番１７号	☎河 内 0729(62) 1131
京阪支社	〒573	枚方市西田宮町１６番１７号	☎枚 方 0720(41) 1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区相生町5丁目13番10号	☎神 戸 078(576) 5231
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸御池梅屋町３５８	☎京 都 075(231) 8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北２丁目４番１号	☎奈 良 0742(44) 1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町１丁目１	☎和歌山 0734(31) 2481
姫路支社	〒670	姫路市神屋町４丁目８	☎姫 路 0792(85) 2221
東播支社	〒675	加古川市加古川町粟津２９－１	☎加古川 0794(21) 1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町６丁目５７番地	☎豊 岡 07962(3) 2221
湖南支社	〒525	草津市追分町字荒堀６８０の１	☎草 津 0775(62) 5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町９番４１号	☎彦 根 0749(22) 3131
（長浜営業所	〒526	長浜市南呉服町３番４号	☎長 浜 07496(2) 7171）

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

83.12.(00) 大